

「大学生」は自分で作る

私は大学生活にやり残したことが多くあります。そんな学生が増えないように。いなくなるように。不安定化する若者の将来を大学での学びによって支援する。そんな著者の思いからこの本は生まれました。

入学試験に合格するだけでは「大学生」になっただけとは言えない。この言葉には驚きました。すがすぐに納得しました。「大学生」になる資格を得ただけでこれから「大学生」になっっていく。そのための第一歩として大学という世界のルール・慣習を知ること。自分はどんな「大学生」になりたくて何をすべきなのか。

そのことを考えるにあたって自分はなぜ「大学生」になったのかを改めて考えてみる。そうして自分のなりたい「大学生」像を明白にしていくこと。この言葉たちが私の心に突き

刺さりました。ああ私は自分のなりたい「大学生」像が見えていなかったのだな…と。

大学ではどのように学べばいいのか。次はその事について語られていました。大学では先生によって授業の仕方は全く違います。そのためただ受け身になるのではなく、自分自身で予習復習を行い、ノートを作り上げていくことが必要になります。そして、ここで著者は、単位を落とすとしてもかまわない。そう力説しています。単位の取りやすい授業ではなく、自分に意味のある授業を選ぶことが大事であると。確かにその通りだと思います。ですが私は単位の取りやすい授業を受けることが悪いとは思いません。私自身単位の取りやすい授業も選んでいました。しかし、単位の取りやすい授業を受けたことによって自分が今まで出会ったことのない知識との遭遇がありました。自分が見たことも聞いたこともない授業を受けてみるのも心が躍るものですよ。

そして最後に、大学を卒業してからどのよ
うな「キャリア」を歩むのかを考える事が大
切だとありました。企業に就職するのか公務
員になるのか、大学院に進学するのか専門学
校に行くのか、選択肢は様々です。また、非
正規雇用で働くという手もあります。今は本
当に多様な働き方があるのです。自分にとっ
て何が一番大切なのかを考えてください。決
められた人生なんてどこにもないのですから。

この本を通して私は大学生活をもっとあ
あ
していればよかったと正直後悔しました。も
ちろんこの本が正しいというわけではありま
せん。ただ、今悩んでいる青年たちにほんの
少しばかりでも力を与えてくれる。そんな一
冊であることを願います…。